

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400410		
法人名	有限会社 ケアネット		
事業所名	グループホーム みやこ		
所在地	札幌市手稲区前田12条10丁目13-8		
自己評価作成日	平成27年6月20日	評価結果市町村受理日	平成27年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは閑静な住宅街に有り2階建て1ユニットの民家に近い大きさのホームです。向かいには公園があり、土日や放課後は子供たちで溢れ、窓越しや公園等で子供たちや地域の方たちと触れ合える楽しみがあります。ホームで飼っている犬は近所でも人気者です。ホームの吹き抜けのガラス窓から暖かい日差しが入ります。入居者のみなさんの多くは居間で過ごすことが多く、2階のお部屋で過ごす方も階下のカラオケ等の歌声に誘われ降りてこられます。食事近くになると食材を切る音や料理の匂いが2階にも届き、自然と居間や食堂に集まってきます。居間での団欒を大切に、子供たちを含め地域とのふれあいのあるホームであるよう努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani%3D%3E&JigvosyoCd=0170400410-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成27年10月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の閑静な住宅街に立地している2階建ての1ユニットのホームである。建物内部は明るく家庭的な雰囲気、外庭には花壇を造り、人気の中型犬を飼っている。玄関先の公園は地域の人々との交流の場となっている。管理者及び職員は利用者一人ひとりを尊重し、毎日の生活を大切に自立できるように支援している。散歩や買い物、音楽療法などで生活の活性化と健康維持をはかっている。家族には毎月「たより」を送付して行事や暮らしぶりを伝えており、家族から信頼を得ている。運営推進会議は、行政関係者や町内会の人々、家族が参加して事業所運営や行事、災害対策などについて話し合い、討議内容はサービス向上に有効に反映させている。地域とは町内会や老人クラブとの交流が盛んに行われ、近隣高校生によるホーム内での吹奏楽演奏は好評であった。「ゆっくり、楽しく、一緒に」の理念の下、地域に溶け込み、安心して充実した生活を送れるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境のもと、ご利用者が「ゆっくり、楽しく、一緒に」生活できるよう、理念を共有したホームづくりに向け各職員が努力している。	理念は額に入れて人目に付きやすい玄関前廊下に掲示し、パンフレットにも記載している。管理者及び職員は会議や研修会などの機会をとらえて理念を確認しサービスの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩中に地域の方々や挨拶したり、町内役員の方がホームの花壇作りに一役かかってくださったり、交流に努めている。地域の方々さがりげなく見守ってくださっている。	地域の人々は利用者の方々や挨拶を交わすなど温かくを見守っている。町内会の夏祭りの参加や老人クラブとの交流があり、地域の高校生が吹奏楽をホーム内で演奏するなど若者との交流も実現している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に運営推進会議の中で認知症周辺症状やその支援内容について報告し、ご意見をいただいている。地域への貢献までは果たせていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに活動報告を行い、支援・活動内容について意見交換をさせていただいている。そこでの意見を参考にさせていただいている(無断外出予防策等)	会議は定例に開催し、地域包括センターや町内会役員、老人クラブ、家族が参加し行事や災害対策、事故などについて話し合いサービス向上に活かしている。家族には開催日を案内し議事録を送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区保護課担当者や地域包括支援センター職員に困り事を相談し、アドバイスをいただいたりと協力関係を築けるよう努めている。	行政担当課職員とは常に情報交換を行い、協力関係を築いている。管理者は管理者会議の役員を引き受けるなど、行政と共にケアサービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒予防のためセンサーを使用している方にも、随時使用の必要性を検討したり、寒い日以外は玄関は開け放ち身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルを整備し身体拘束のないケアを実施している。定期的に内外の研修に参加し、拘束についての職員の認識の共有をはかっている。玄関は日中は施錠をせず、音センサーを利用して出入りのチェックを行い、安全にも配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	最近虐待防止について学ぶ機会を持っておらず、常に注意は払っているが不適切な場面はある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要なご利用者様には日常生活自立支援事業をご利用いただいている。成年後見制度についても内部研修として専門家をお招きし概要について学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・解約・契約内容改定時に都度ご説明させていただいた上で、疑問点等伺いご納得いただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に運営推進会議の場でご意見ご要望をお伺いし、ご利用者様からはその都度ご意見等表していただき運営に反映させていただいている。外部機関への相談もできるようホーム内にポスターを掲示している。	家族には「みやこだより」を毎月送付して行事や生活状況を詳細に伝えている。家族の訪問頻度は高く、訪問時の会話から家族の意見や要望を収集し運営に反映させている。また外部への苦情受付機関も案内している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員の意見や提案を聴く機会を設けるよう努めているが、運営への反映や職員がしっかり聞いてもらえているという満足感を得られていない。	カンファレンスなどで職員の意見や提案を聴く機会を設けている。代表者は事業所を訪問することが度々あり、運営に関する職員の希望や提案について理解を示している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日頃から職員とコミュニケーションを図り個々の状況を把握し、職場環境や条件の整備の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じ、研修の参加の機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で他事業所の職員が兼務する中で交流している。管理者が法人内外で同業者と交流する機会はあるが、職員が相互訪問する機会はなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様やご家族様、他事業所担当者と面談し、不安なことや要望等伺い、新しい環境で生活を始めるにあたってできるだけ安心していただけるよう信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の生活状況や困りごと、これからの生活に対する不安や要望等を伺い、ご家族様の心身の負担が軽減されるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時のアセスメントで必要な支援を見極め、その方にとってどの社会資源が大事になるか関係者間で相談させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士の関係を築こうという意識がホーム全体に根付いていない。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と情報共有できるよう日ごろから気軽に相談や意見が言えるような関係作りに努めている。変化があればこまめに連絡し、一緒に課題を解決する関係性を目指している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医や友人、知人、趣味活動等長い間培われたなじみの関係が途切れないよう支援させていただいている。	家族や知人の訪問時には、事業所内で共にゆっくり寛げるように配慮している。馴染みの場所や行きつけの理・美容室訪問などには付き添うなど、親しい関係が続くように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良好な関係性はもちろん、孤立しそうな方のことも、こういうことで頑張っています、こんな病気と闘っているということを職員が代弁することで、縁あって一緒に暮らす仲間としての関わりを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談等に乗らせていただいたり、面会等で環境が変わったことによるダメージの軽減に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で希望や意向の把握に努めている。把握が困難な時にはご家族様やなじみのある関係者から好みや興味のあることを把握することで、その方の立場に立った支援を検討している。	本人との会話や日頃の行動から、「どのように生活したいのか」の思いの把握に努めている。入居時の生活歴の記述や家族の話からも情報を得て、本人の希望に添えるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始時やその後も生活歴や暮らし方、考え方をできるだけ会話の中からさりげなく把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援経過記録や申し送り、ケア会議の中で、できること・できないこと、日々の体調変化等を見極め、できる限り持っている力を発揮していただけるよう現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議の中で意見を出し合い計画作成をしているが、主役であるご本人様やご家族様、医療機関等関係者全員で意見を出し合うことはできていない。	本人や家族の希望を聞き、介護支援専門員を中心にケア会議に於いて、職員全員で話し合い作成している。3カ月ごとにモニタリングをしているが、変化が生じた時は随時検討して介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録記入の重要性やケアの実践や結果、気づきがその後のご利用者様の生活に大きく影響するなどの理解を深める場が十分ではない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援は十分ではない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板で回ってくる地域のイベント等の情報を把握したり、町内のカラオケ等に参加することで暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様ご家族様の希望を伺いながら、適切な医療を受けられるよう、かかりつけ医との関係を支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医と事業所とは、訪問診療や通院で良好な協力関係を構築している。緊急時には医師と連絡をとり、常に適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回訪問看護師が来訪し、健康チェックをしていただき、生活全般の相談をしていただく中で、受診や日常生活上のアドバイスをいただきながら生活を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時病院関係者と連絡調整に努めている。また日頃から関係医療機関との関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	事業所内で行えることを確認しながら、タイミングを見てご本人様、ご家族様、かかりつけ医と終末期に向けた話し合いを行っている。	入居時に家族の意向を伺い、「重度化に関わる指針」を提示して文書により了解を得ている。状態が変化した場合は家族や関係者と情報を共有し、医療連携をとりながら最善の方法がとれるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は不十分。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。災害への備えに関して区担当者より説明を受けている。地域への協力体制については今後協議を重ねる必要がある。	避難訓練は消防署指導の下、年2回実施している。訓練は運営推進会議開催日に合わせ、家族や地域住民の参加を得て実施している。今後更に地域との協力体制については協議を重ねるように検討している。	災害に備え、水や食料品を備蓄し、また、「防災チェックリスト」を活用し、定期的に電気機器の点検や避難経路の状況について安全を確認することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	大変な時代を乗り越えられた人生の先輩として尊敬の念を持ち、状況に応じプライバシーに配慮させていただいている。	職員は利用者の人格を尊重し、優しさや温かさが伝わるように言動に配慮している。個人情報記載の書類は扉のついた書庫に厳重に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご性格や認知機能の状態に合わせてあまりご自分の方から意見を表出されない方でも、AとBどちらが良いですか等自己決定していただけるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これから何をしたいですか等希望をお聞きしながら、その方らしい過ごし方を支援させていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期手に理美容院にお連れしたり、女性利用者様にはお化粧品やアクセサリー、洋服のおしゃれを楽しんでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、彩り、食器、匂いものを取り入れるよう配慮し、特に食欲低下している方にはテレビなどを見ておいしそうと仰られていたものを献立に取り入れ、食の楽しみを大事にし、準備後片付け等も一緒に行っている。	利用者は持てる力に応じて、買い物や調理の下ごしらえ、後片付けを職員と共に行っている。職員は、献立に利用者の好みを取り入れて変化をもたせ、匂いの食材を利用し、食事が楽しみとなるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事・水分量チェックをしており、受診時不足している栄養素があればできるだけ配慮し、摂取量が少ない方には特に支援を工夫している。月初5日間はカロリー計算をし栄養バランスを把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩はうがい・歯磨き、義歯洗浄の支援をしている。その方の状態に合わせて週1～月1回訪問歯科の口腔ケアを受け、歯科医のアドバイスによる支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツを使用することを避け、失敗がある方にもタイミングを見て声掛け・誘導をしたり、体を動かす等サインをキャッチし排せつの支援をしている。	個々の排泄パターンを把握し、動作や表情からタイミングを察知し、それとなく誘導してトイレでの自立排泄に向けて支援している。日中はできるだけ布パンツが使用できるように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を多く取り入れ、牛乳やヤクルト等日常的に乳製品を多くとっていただいている。毎日ラジオ体操をしたり、できるだけ散歩にお誘いし便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間を決めず、その方の希望やタイミングに合わせて入浴を支援させていただいている。	週2回以上の入浴を基本としているが、一人ひとりのタイミングや体調、希望に合わせている。浴室の清潔や安全にも配慮し、楽しくゆっくり寛げるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠そうな様子があったり、声掛けで気分をお聞きしながら休息を支援している。温度や湿度、音、光等に配慮し、不眠時には傾聴したり場所を変える等で安眠を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報やかかりつけ医に薬効を確認したり、症状の変化があれば医師に報告し指示を仰いでいる。処方に変更があれば連絡ノートや申し送りで情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や会話から得意なことや嗜好を把握し、楽しみが少ない方にも色々提案し、その方の持っている力を発揮していただきながら、有意義な生活を送れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等できるだけ外出の機会を持つよう心掛けている。時々大きな公園に出かけたり、誕生日にはその方が好まれそうな場所やゆかりのある場所に出かける等している。	事業所前の公園ベンチに座っての外気浴や近隣散歩は日常的に行っている。ドライブで郊外の公園に出かけたり、レストランで外食を楽しむこともある。誕生日には本人の希望する場所に職員が付き添い出かけており喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の状態に合わせて少額のお小遣いを持っていただいたり、ホームでお預かりしている。買い物時に支払していただく等お金の大切さに触れられるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からプレゼント等が届いた際にはお礼の電話をしていただいたり、ご希望時電話をしていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間にご利用者様や職員のご家族様の作品を展示し目で楽しんでいただいたり、季節を感じられるような置物を置いたり、不快な匂い・音がないよう配慮している。	居間は吹き抜けとなって明るく、窓からは外の景色を眺めることができる。玄関や居間には利用者の作品を飾り、季節や家庭的な温もりを感じさせてくれる。採光、温度、湿度は適切に管理され、臭気や騒音はない。ゆっくり寛げるよう各所に椅子などが配置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々で歌を歌ったり一緒にお茶を飲む場もありながら、ホームの各所に椅子を置き、独りになりたいときには自室でリラックスしていただいたりと思い思いに過ごしていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境の変化によるダメージを少なくするため、入居時にできるだけ使い慣れたものをお持ちいただいている。筆筒や写真、ぬいぐるみ、テーブル等なじみのある品々に囲まれて心地よく過ごしていただいている。	居室入口には、それぞれ親しみのある表札が掛けられている。馴染みの家具を持ち込み、家族の写真や趣味の物を飾り、居心地良く安心して暮らせるよう工夫している。程よく整頓され清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は2階に集中しており、吹き抜けから音を把握したり居室を訪問することで安全面に配慮している。できること・できないことを見極め、当たり前の生活を前提に、難しくなっていることは都度声掛けや一部支援している。		